1994年（平成6年）6月　第10号

都島だより
KANTO NANIWA KOGYOKAI NEWS 10
関東浪速工業会 会報

'94.6.10

発行責任者
中野大八郎
横浜市磯子区磯子台24-3
〒235　TEL 045-761-2154

投稿送り先
石川　芳夫
〒265 千葉市若葉区中田町1193-13
TEL 043-228-2102

会長を引受けて

（M16）中野大八郎

中野新会長

平成六年度の会長を引受けるに当り、昨年の当会を手際よく運営された前会長の太田清氏並びに幹事の皆さんに、心からお礼申し上げます。

昨年平成五年は戦後では類を見ない程の多事多難な年であったと痛感しています。一寸、思い浮べただけでも、年明け早々に皇太子妃内定という明るいニュースが発表されましたが、それも束の間、金丸自民党元副総裁の巨額の脱税が発覚して倒閣につながり、与野党が逆転するとともに、大手ゼネコンの汚職事件に拡大しました。夏には奥尻島の地震と津波、鹿児島の大豪雨に夥しい人命と財産が失われ、普賢岳は今もって火砕流が収まりません。加えて戦後最大の凶作とあっては日本列島も遂に見放されたかと、天を恨みたくなるような事ばかりでした。天変地異だけでは済まずバブル経済崩壊後の不景気の出口は一向に見えて来ません。それらの後遺症はそのまま今年に引継れていますので、企業の第一線でご活躍の大多数の会員の苦労がしのばれます。このような時に同窓会でもあるまいと、お考えの方も居られると思いますが、この逆境こそ心の潤滑油として同窓会を利用するのも、一つの知恵ではないでしょうか。

今年度の行事は幹事会で次のように大綱が決まりました。

(1)夏の始めに江戸東京博物館を見学。
(2)秋口に金田龍之介君が出演の観劇。
(3)十月頃に懇親ゴルフ。
(4)十一月中旬に本年度の総会。

日時その他の詳細は別途にお知らせしますので、多数のご参加を待っています。

幸いにも副会長の松原正氏とは、同じ小学校を出た幼馴染で今でも、ちゃん付けで呼び合う仲でもあり、又、幹事諸兄の気心もよく承知していますので、阿吽の呼吸でこの一年を乗り切って行きたいと願っております。

最後に会員の皆様のご健康とご活躍を念じながら、会長就任の挨拶に代えさせて頂きます。

号外

「祝」おめでとうございます。

母校都工から大臣誕生

近江巳記夫氏（科学技術庁長官）

近江巳記夫氏 科学技術庁長官に就任

都工建築科（昭和29年卒）の近江巳記夫衆議院議員が羽田新内閣の国務大臣（科学技術庁長官）に就任されました。58歳謹んでお祝い申し上げます。近江氏は31才の若さで、昭和42年総選挙で当選され、衆議院当選9回。交通安全対策特別委員長、運輸委員長を歴任され、公明党筆頭副委員長としてご活躍されてきました。

浪速工業会に対しても、何かとご尽力をいただいております事は、会員の皆様もご承知の通りです。関東浪速工業会におきましても、国会見学会や、総会では国会報告等をしていただき大変お世話になりました。

国内外とも多難な時期の就任ご苦労も多い事と思いますが、ご健闘をお祈り申し上げます。

（A47西口）

「総会・懇親会」開催

西野理事長

十二月八日、平成5年度の総会を市ヶ谷グランドヒルにて開催、本部から西野理事長をお迎えし、大阪の状況を伺い、六年度新会長中野大八郎氏（M16）、副会長には、松原正氏（A15）を選出した。また、総会の冒頭に、国会予算委員会会期中の中を、近江衆議院より国会報告を賜わり、会を盛りあげていただいた。

56名の出席者であった。若い方の参加を望みます。

（M34石川記）

見学会

「江戸東京博物館」

江戸東京の歴史を勉強してみませんか。見学会の後、近くで懇親会を予定しております。

日時　六月十八日（土）午后二時
場所　江戸東京博物館　チケット売場前に集合
交通　JR総武線両国駅西口下車　徒歩三分
費用　大人五〇〇円（団体四〇〇円）　六五才以上無料
懇親会　四〇〇〇円（自由参加）（同伴者三〇〇〇円）
申込方法　六月十二日までに各科幹事まで。

観劇会

ミュージカル「マイ・フェア・レディ」

金田龍之介氏出演

息をのむまばゆい美しさ！華麗さと迫力に陶酔！　世界でいちばん愛されているミュージカル！　を団体で観劇会を企画しましたので、多数のご参加をお待ちしております。

日時　九月十八日（日）十二時
場所　帝劇（皇居前）
入場料　九〇〇〇円（A席）

チケットは、三十枚確保しました。

申込みは、各科幹事へ九月一日までにお願いします。チケットのお渡し、チケット代は申込受付時にご連絡いたします。

尚、公演期間は、九月四日から九月三十日まで。

笑福亭松葉さん 七代目「松鶴」に

Mニュース9号でご紹介しました、CH45卒笑福亭松葉さん（本名倉本雅生）が七代目「松鶴」を襲名されることになりました。既にテレビ、新聞等でご存じの方もあることと思いますが。関東浪速工業一同心よりお祝い申し上げます。詳しくは、新聞記事の一部を引用させて頂きます。今後ともより一層のご支援とご声援を賜わりますようお願い申し上げます。

松葉さんと同じ落語会でご活躍されておられます。「桂米左」さん（59A木村佳）にも、変わらぬご声援をお願いします。

（新聞抜粋）

「七代目」笑福亭松鶴さん、ある朝、目が覚めると、晴舞台にいた。平社員が突然、社長に抜擢されたような・・。上方落語会の大名跡、笑福亭松鶴を継ぐことが決まった笑福亭松葉さん（42）の心境を表現すれば、こうなるだろう。六人もの兄弟子を飛び越えての襲名には、世間もあっと驚いた。「（襲名して）当然の位置にいたのなら問題もないが・・。師匠は芸も人間も大きすぐる」選ばれたことに対する、恐れとおののき。正式な襲名披露は一、二年先になりそうだが、松葉さんの「胃の痛む日々」はしばらく続く。

（A47西口記）

幹事連絡先

会報・催物等の問合わせは、左記にお願いします。

	卒年	氏名	自宅	勤務先
会長	M16	中野大郎	045-761-2154	——
副会長	A15	松原　正	03-3780-5701	03-3993-0939
幹事	A47	西口勝臣	0474-33-3679	03-3817-8864
	E13	笹本克巳	03-3269-3338	03-5441-5481
	CH34	柴田孝次	03-5670-1049	03-3275-1621
	C20	榎本嘉信	03-3976-6328	03-3666-5503
	M34	石川芳夫	043-228-2102	03-5689-2351

俳句　夕ざくら

M18　小川玉泉

草萌ゆるひかりを海へ馬入川
浅春の日差しを膝に熱海行
角笛に似し春月や伊豆泊り
駅前を一人舞台に花辛夷
初蝶を吸ひよせて池かがやけり
たんぽぽの自生や銀座四丁目
夕ざくら川やすらぎの刻持たず

思い出

A18　岸　直行

絵の好きな仕事仲間に誘われて、「彩人会」という絵の同好会に参加して、もう十年以上は経っただろうか、毎年、夏に開かれるグループ展に小品を出品しています。

この展覧会への出品が刺激となり、長い間休んでいた画作に再びて手を染めることになりましたが、それにつけても思い出すのは、都工時代の図工の授業であります。

油絵の勉強ということで期待に胸膨らませてスタートした授業でありましたが、始まってみると来る日も来る日も、単調なデッサンの学習。手はもちろん鼻の頭まで、木炭で真っ黒にしての悪戦苦闘の連続でした。

今度こそは自身の出来と、先生に見てもらうと、無残にも、さっと消しゴム替わりの食パンで消されてしまい、手を入れられる。悔しいが、その一筆により見違えるように生き生きとしたデッサンになるという繰り返しでした。

この様に毎度のことながら、自分の表現力の未熟さをつくづくと思い知らされる辛くて、かつ退屈なデッサンの時間が長く続きました。それだけに、初めて油絵の具をパレットに絞り出し、キャンバスに筆を下ろしたときの観劇は、今でも忘れられません。

その後社会人となり、たまたま、ある展覧会で、その先生の代表作「夜汽車」に出会ったときのショックも、忘れることの出来ない思い出であります。

身近に手解きを受けたあの先生が、こんなに有名で立派な先生であったのかと、改めて大きな驚きと同時に誇りを感じた一瞬でありました。

この先生こそ、明治三十二年に東京美術学校を卒業された、わが国洋画壇の先駆者であり、明治、大正、昭和と三代にわたって、後進の育成に尽くされた赤松麟作先生その人でありました。

あの佐伯祐三も麟作先生の塾で学んだことがあると聞きます。

これからも、都工時代の思い出として、この貴重な体験を誇とし、先生から徹底的に叩き込まれたデッサンの重要性を肝に銘じて、趣味としての絵の道に精進していきたいとの思いを新たにしております。

なお、ご承知の方も多いとは思いますが、先生の代表傑作でもある「夜汽車」は、明治三十四年の作で、薄暗い電灯やマッチの火に照らし出された夜行列車の乗客の物憂いような情景が、巧みに描き出されており、画面から自ずと温厚な先生の人柄が滲み出てくるような傑作であります。

白馬会賞を受けたこの作品は、現在、東京芸術大学に所蔵されています。関心のある方は、手近なところでは、『日本の画家「近代洋画」』カラーブックス（保育社）などをご覧ください。

たかが俳句・されど俳句（2）

（M16）中野大八郎

定型・季語・切字

先日の教室で「五才の孫の作ですが俳句になっていますか」と渡された紙に、「ブロックはこどものあそぶおもちゃです」と書いてあった。このお孫さんは母親が入院のため、3回ほど祖母と一緒に教室で私の話を聞いていたのである。

「感じたことを素直に表現していて、これが俳句の基本です。五才だから俳句の約束ごとが判らないのは無理もないことで、折にふれて作らせなさい。将来はすぐれた俳人になりますよ」と誉めておいた。

今の俳句界には芭蕉の教えを守っている伝統派と、それには拘泥しない自由自在なものに岐れているが、私は前者を踏襲しているので、これからも、その線に沿って筆を進めることになる。前述の作品を、五才児の作としてでなく、一句として評価した場合、これでは俳句になっておらず、散文の一節としか言いようがない。

五音や七音が日本語の快適なリズムと感ずるのは日本人の日本人たる所以。五才の幼児も無意識にこのリズムを摑んでいる。五・七・五は日本語の詩歌の、長い歴史の末に探りあてた、美しい韻律をもった最短の形式なのである。

四季に恵まれた日本で生れた俳句に、季節感を折り込むことは当然の成りゆきであろう。俳句に於ける季語の特性は、季節感・連想力・安定感の三点にあると説く人がいるが、全く同感である。

五・七・五の型式（定型）と季語があれば一応俳句となるが、何百字、何千字に匹敵する内容を僅か十七音字で表現するために、欠かせぬのが切字であり、先の作品を散文の一節と言ったのは正にこのことである。季語と切字については稿を改めるが、標題の、定型・季語・切字が俳句の基本的な三要素であることを、先ず明記しておきたい。

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

関東浪速工業会の今昔を語る

（9号の続き）

—会を支えてきた人びと—

（昭12　電卒）上畑　清郎

（四）ここ十年来の動き

昭和58年には建築が当番となり同年十月に青甍会代表の仁木謙治さん（A9卒）が会長に選ばれた。本部とは別の独立の運営をという従来の方針と堅持され、特に若い人を引き付けて会員相互の親睦を深めることに努力された。その年の総会は、六本木のディスコ・クラブで行なわれ外国人のバンドを歌手によるアトラクションがあった。

俳優の金田龍之介さん（M21卒）が新橋演舞場から駆けつけてこられ魅力的なスピーチをされた。会の運営のシナリオは、野村久克さん（A13卒）、山崎俊彦さん（A16卒）たちによって計画されていたように思う。

昭和59年の夏、電気科卒の皆さんにそわれて私が次の会長の大役を引き受けることとなり、その年の十月、有楽町のニュートーキョウで総会を開いた。私はこれからの関東浪速工業会は従来の姿から脱皮することが必要であると次の様な方針を述べた。

一、関東浪速工業会の組織や名称はそのまま存続し、この際大阪の本部との連繋を密にし、支部的な機能をもたせる。（その第一弾として関東への交付金をお願いする。）

二、本部から東西合同懇親会開催の提案があり、これに全面的に協力する。

三、会員の為になる様な、講演会、見学会を開催する。

四、関東浪速工業会のクラブ設立の準備を進める。等を目玉として会員の皆さんのご賛同と支援を求めた。

当日の総会の席では、当時日本原子力研究所の理事をしておられた能沢正雄さん（M20卒）に原子力について分かり易いお話をして頂いた。

さて夫の提案に対して、当時の理事長原田義さん（M20卒）、関東浪速工業会では三枝寿一さん（M20卒）、若林衛さん（A36卒）、電気では笹本克己さん（E13卒）、島節雄さん（E14卒）、野村明さん（E16卒）達の強いバックアップを得て、度々話し合いの場を持たれた。母校あっての浪速工業会、浪速工業会あっての関東浪速工業会という考え方が広まっていった。

あの当時、本部評議員の石井一郎さんから墨痕鮮やかな激励のお手紙を度々頂き、氏の力作「都の葦」をドサッと宅急便で送って下さった。私は、これを関東のリーダーの方々に配布した。

昭和61年には、太田清さん（C18年）に会長職をバトンタッチし着々と会の基礎固めを図って頂いた。本部からの還付金制度も実現し会のふところ具合も豊かになった。母校創立八十周年事業への協力キャンペーンにも尽力された。会長をサポートして活躍された秋月勝美さん（C18卒）、榎本嘉信さん（C20卒）の労を多としたい。

昭和62年11月には、松井駒治さん（CH32卒）が若さと活力で会をまとめられ、ゴルフコンペもスタートした。63年4月の第一回コンペでは、本部から西田理事長（C21卒）を迎えて、中津川カントリーで行なわれた。中野大八郎さん（M16卒）が、ネット65という好スコアで優勝された。

（つづく）M11号で（完）

青甍会だより

昨年12月の関東浪速工業会総会時に、青甍会関東支部の会長引継ぎが行なわれました。

5年間会長を努められた28年卒の岡田宏三さんから、15年卒の松原正さんへのバトンタッチです。松原さんは、以前からも同窓会幹事としてご尽力いただいておりました。此の度、関東の青甍会会長をお引受け頂きました。皆様のより一層のご協力とご支援を賜わりますようお願い申し上げます。更に関東浪速工業会の副会長も兼務されますのでよろしくお願い致します。

（A47西口）

編集後記

Mニュースの発行が遅れましたことを深くお詫び申し上げます。

Mニュース11号は、10月発行予定です。

未投稿者のご協力を是非お願いします。

おことわり

紙面の都合上、上畑様の御寄稿は、全部掲載できませんでしたので、次号11号ニュースで（完）とさせていただきますので御了承願います。